

令和4年度  
社会福祉法人小百合苑  
事業報告書

# 社会福祉法人小百合苑

理事長 大西宏幸

**法人理念** 子どもの最善の利益を考える 誇りと責任を持って真心保育を実践する  
子どもの成長発達を支える 保育を通して福祉に邁進する  
子育てに関わる社会的役割を果たす

**法人事業** 第二種社会福祉事業  
イ) 放課後児童健全育成事業 古川橋小学校放課後児童クラブ  
ロ) 一時預かり事業 古川園・柳町園  
ハ) 養育支援訪問事業 古川園  
ニ) 幼保連携型認定こども園 古川園・柳町園  
ホ) 小規模保育所 柳町園ブリスガーデン

**苦情解決** 保護者の声を真摯に聞き、各施設で苦情処理に取組み、丁寧に対応した  
以下のスタッフは虐待防止委員も兼ねる。

	古川園	古川橋児童クラブ	柳町園	ブリスガーデン
苦情解決責任者	藤岡里実		大西宏幸	
苦情受付担当者	秋山 淡路	阿部	大西佐	眞野
公正採用選考人権 啓発推進員	藤岡	阿部	大西佐	眞野
安全衛生推進者	藤岡 松成	阿部	大西佐	眞野
人権リーダー 養成講座修了者	藤岡 松成 秋山 平井 寺田	田中	大西佐 平田 橋田	眞野

## 法人運営・施設整備等

- ・新型コロナウイルス感染症流行が落ち着き、令和5年3月より理事会・評議委員会を集合開催した。
- ・門真市の開発でブリスガーデンのビルが解体のため、令和6年3月で閉所する。整備後にタワーマンションでの保育再開の打診を受けるが、少子化が急加速する中、慎重に検討している。
- ・働き方改革施行 休憩時間の取り方、休暇取得率向上など労働環境を見直した
- ・拠点区分間繰入 柳町園土地の無償貸与契約終了のため計画的に本部に繰入れする。  
古川園1500万円、柳町園1900万円、ブリス430万円

## 法人職員研修

法人合同研修、こども・職員の施設間交流を中止。オンライン参加や、各園で研修会を開催した。

## 危機管理

- ・門真市新型コロナウイルス対応に準じた。こども集団の感染防止対策を模索した。
- ・表情が見えないマスク生活。熱中症を警戒しながらこどもたちの健康観察をした。
- ・各施設で保育者の不適切な関わりを行わないように啓発した。
- ・門真の土地の特性や浸水エリアなど職員に危機感を持たせると共に、防災力を再考した。

## 福利厚生

- ・法人独自の新型コロナによる欠勤の保障制度を作った。
- ・緊張の続く日々の労務で就労意欲が喪失しないよう配慮をした。

## 乳幼児保育・教育事業 古川園・柳町園・ブリスガーデン

### 保育方針

一人ひとりのこどもを大切に、明るい笑顔、優しい言葉をモットーに  
家庭的な雰囲気の中で真心のある保育を実践します

### 保育目標

よく見て、よく聞いて、よく考える子 心身共に健やかな子 思いやりのある心豊かな子

### 保育計画

一人ひとりの個別計画の下に成長発達を支える  
子どもの立場や思いを理解し、楽しい園生活を保障する  
叱らない、教える保育、喜びを感じる保育の推進  
子どもの人権を守る(いじめ、仲間はずれ、懲戒等はしない、させない)

### 職員体制

	古川園	柳町園	ブリスガーデン
園長／施設管理者	藤岡里実	大西宏幸	眞野千恵美
副園長	松成晋一	大西佐知子	—
主幹保育教諭	秋山尚美 淡路真弓	平田玲子 橋田裕子	—
正規保育教諭	20名(産育休2名含)	24名(育休2名含)	2名
非正規保育者	8名	10名	2名
非正規看護師	—	1名	—
短時間保育者 20時間未満	3名	0名	3人
事務／保育補助	10名	4名	—

・保育補助者の採用など、市補助金のシステム変更に合わせて対応した。

### 保育サービス 重要事項説明書の同意を得て、保育を開始

	古川園	柳町園	ブリスガーデン
乳児保育	3カ月～	3カ月～	3カ月～
開園時間	7:00-18:00	7:30-18:30	7:30-18:30
延長保育	18:00-19:00	18:30-19:00	—

- ・新型コロナウイルスによる登園停止期間の保育料、主食費などの減免対応をした
- ・食材費が高騰し、給食の質の維持のため、給食充実費としてご家庭に300円負担を求めた。

### 職員資質向上・研究課題

- ・不適切保育の報道を受けて、法人内の保育を振り返った。コロナ禍が続いたが、ストレスをためないことを心がけた。子ども主体の寄り添う保育を見直した。
- ・置き去り事故報道を受けて、園内で守れる命について保育者ができることを共有した。
- ・子ども取り残し事故の報道から、正確に出欠把握、人数点呼するよう保育を見直した。
- ・3施設で市内入園申込み数の36%と多くの希望をいただいた。引き続き申込み数50%をめざす。
- ・就職フェアの縮小などコロナ禍の職員採用が難しかった。zoomも併用して説明会をした。
- ・処遇改善につながるキャリアアップ研修の費用負担等、積極的に支援した
- ・障がい児保育 障がい児生活のしづらさを理解 同じ場で共に育ち合うことを目的とした。

### 保育内容・子どもの活動・行事他

- ・乳幼児施設として密回避に限界はあるが、新型コロナウイルス感染防止対応を再確認した。
- ・遠足や園外保育、行事、イベントなどコロナ前の活動を取り戻しつつあった。
- ・社会情動的スキル、生きる力を伸ばすための保育・教育を考えた
- ・生育歴・心身の発達、保護者の意向に即し個別計画を立て、一人一人に寄り添う援助をした。
- ・自己肯定感・幸福感を高める保育を考えた。
- ・課題ある家庭への理解を深め、保護者のしんどさに寄り添う対応スキルを深めた。

### 新型コロナ対策

- ・園児・職員とも新型コロナ陽性連絡が度々あり、職員配置の危うい時期があった。
- ・夜間の消毒業務委託。掃除とアルコール消毒
- ・手拭きタオルと食事用おしぼりを使い捨てに変更。
- ・新型コロナ流行状況に合わせて、幼児のマスク着用 保育内容・生活を見直した

### 地域貢献事業

- ・子ども食堂は中止。新型コロナのステージに合わせて一時預かり保育、園庭開放を中止した。
- ・メールや電話での育児相談は随時受け付けた。

	古川園	柳町園	ブリスガーデン
地域貢献支援員 スマイルポーター	秋山 平井 松成 富永 淡路 江口 倉本 石橋 小長谷 福本 寺田 寺馬 田中	大西 平田 橋田 古川 藤村 西田	眞野

### 危機管理

- ・門真市の浸水エリア等を把握し非常時に備え、津波想定訓練をした。
- ・災害非常時には、乳幼児に特化した施設として地域の拠点となる準備を続けた

### 保健・食育

嘱託内科	嘱託歯科	嘱託眼科(柳町園)	嘱託薬剤師
堺医院 堺昭彦医師	堺デンタルクリニック 佐原起志子医師	川上眼科 川上剛医師	溝端裕己

- ・幼児の視力・聴覚検査を実施

### 施設整備他

- ・保育所施設・設備整備積立資産 古川園500万円

### 福利厚生

- ・新型コロナ対応で職員の負担が急増したため補助金でカカリマシ手当、処遇改善臨時特例手当、物価高騰手当の支払いと、法人独自でグルメカードなどを支給した。

### 養成校連携・その他

- ・実習生、ボランティア、中高校生の職業体験事業等、次世代の保育の人材育成を支えた

#### 保育内容 子どもの活動 新型コロナ対策 他

- ・ICカードとLINEによる出欠管理で速やかに子どもの人数把握ができるようになった。
- ・SNS利用の効果 LINEアカウント開設で保護者との情報共有アップ、インスタで発信力アップした。
- ・性自認、多様性の園内研修や、アクアリウム、点字本、廃材制作等子どもに身近なSDGsを導入した。
- ・2階ホールが幼児の遊びの場として確立。保育室とホールの分けした自由な遊びが広がった。
- ・ガーデンプランナーと庭の植物遊びが定着。野菜以外の植物への興味が広がった。
- ・体操講師交代を緩やかにするため、講師2人が平行指導。コロナ禍の運動機能回復を目指した。
- ・配慮児数が急増し、職員の支援スキルアップが急務となり、心理士と巡回相談を委託契約した。指導を受ける、相談できることが職員のストレス軽減となり、園内に共生保育の意識が高まった。
- ・要配慮家庭に園全体で子どもの安全を保障する体制をとった。施設間連携を強化した。
- ・園児の兄弟のヤングケアラーの心身の疲れに寄り添った。
- ・2ヶ月で新任職員が退職し、職場としての園を振り返り、反省した。若年退職を繰り返さないために、保育者が子どもにとって大切な環境である自覚を持って、同僚性、倫理観向上に努めた。
- ・ボーネルンドショップで職員交流を兼ねた研修をした。大人が楽しく遊びこむ体験からこどもが集中して遊ぶ大切さを学んだ。

#### 保健・食育

- ・職員の食事は空間を共有しないよう徹底した結果、こどもと離れた時間が確保できた。
- ・食育行事は菜園活動のみ。新型コロナウィルス感染防止対策を優先した。

#### CS(Customer Satisfaction) 行事計画

- ・発表会の幕間に当日までの取り組みを動画で紹介。日々の様子がわかり保護者に評価を得た。
- ・お泊り保育や雪山遠足等の園外保育や合唱などコロナ前の保育を部分的に取り戻した。
- ・保健福祉センター障がい者福祉センターの交流を延期。災害時連携に備え、終息後に計画する
- ・保護者やこどもの声に応じ、ハロウィンパーティ、自由参観、保護者ツリーハウス体験会を開催した。

#### 苦情解決・相談 責任者:園長 藤岡 受付担当:主幹保育教諭 秋山 淡路

- ・児相通告に対するお叱り ・職員が自分に対する対応と他の人への対応に差がある
- ・マスク内のけがの報告漏れ ・個人情報の取り扱いに配慮が足りない
- ・発達について見解相違 ・登園時の職員の態度が気になった ・行事参観の人数制限について

#### 地域子育て支援

- ・親子保育は密回避に3部制開催。伴奏型子育て支援として、妊婦サロン「マタニティコアラ」を始めた。
- ・園庭開放を週2回から5回に拡大した。

#### 危機管理

- ・BCP、安全計画を策定した。備蓄庫を設置し、災害備品の一元管理ができるようになった。
- ・データ消失のリスク回避と、園内共有を高めるためクラウドストレージサービスを導入した。

#### 施設整備他

- ・男性職員の増加により男性更衣室の環境を整えた。
- ・ツリーハウス全面改修 建具改修工事 屋上防水工事 防犯カメラ・機械警備買い換え

## 柳町園 門真市柳町14-10

**苦情・要望解決** 責任者 園長 大西 受付担当 主幹保育教諭 平田

近隣苦情件数 2件 駐車場の順番待ち路上駐車

保護者苦情件数 2件 体温チェック時の体温計 ひっかきの園の対応について

園に対する苦情 1件 市役所より近隣から「歩道で立ち話する保護者が子どもを見てない」

### 保育サービス

- ・よいこネットメールとインスタグラムの配信
- ・こどものいちにちの様子をスマホに配信
- ・ICTを活用して保育者の業務軽減に役立つソフトを開発して特許出願申請した

### 保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動 他

- ・多くの職員がキャリアパスのWEB研修に参加し、多くの職員が60時間をクリアした
- ・体操教室は時間と人数を半分にして回数を増やして行った。
- ・遠足は年5回 鶴見緑地、ビッグバン、キッザニア、天王寺動物園、明治のチョコレート工場、園外保育は万博公園太陽の塔。
- ・各機関と要保護家庭の情報を共有し家庭の安全を見守った。
- ・育児相談受け、支援や療育が必要な家庭と療育施設とを繋いだ。

### CS(Customer Satisfaction)行事計画

・運動会は年齢ごとに入れ替え制で開催。発表会は中止して子どもの活動をドキュメンテーションで配信した

### 保健・コロナ対策

- ・コロナ陽性児童があったときは濃厚接触者の認定を園で行い、休園せずに対応した
- ・看護師の配置により、より専門性の高い知識を保育に取り入れることができた。
- ・検診は 内科(1回) 歯科(1回) 眼科(1回) 視力検査(2回) 尿検査(1回) 聴力検査(1回)
- ・毎週全館消毒を業務委託。玄関と幼児室にサーモグラフ体温計設置。掃除とアルコール消毒。
- ・午睡のコットベッドの間隔を1m開けて配置。給食の人数と飛沫を防ぐ食事環境に変更した。

### 食育

- ・給食会議で意見交換を行い、ケーキの提供などさらなる良い給食提供を行った
- ・野菜ソムリエによる1年を通して園庭で野菜の栽培と、畑で芋の栽培を行った
- ・クッキング保育や餅つきなどの食を伴う活動を再開した

**地域子育て支援**・保護者だけの見学に制限し受け入れた。一時預かり保育を休室する月があった

**危機管理**・保護者のネームプレートの所持が徹底され、夕方玄関前にスタッフが立つようにした

## 柳町園ブリスガーデン 門真市幸福町4-22ヨシカネ第1ビル3階

### 苦情・要望解決 責任者 眞野千恵美

苦情件数 1件 膝の痣があり見てもらえているか不安 痣が出来やすい子と理解して欲しい  
要望件数 1件 朝の子どもの検温を保護者用の感知式体温計で検温させて欲しい

### 保育サービス

- ・保育士の退職者なく、保育のつながりを一年通して行えた
- ・インスタグラムなどで園の情報を配信した
- ・2歳児3名は柳町園の3歳児クラス1号認定(新2号認定)での入園が決まった

### 少子化対策

- ・4月0歳児2名欠員、7月に入園児2名を迎え定員12名在籍となる
- ・園児募集などのチラシを市役所におきインスタグラムにて園の様子を伝え園児募集を配信した

### 保育内容 PS(Planning Section) 子どもの活動他

- ・昨年度に続き「丁寧な保育」を目指す
- ・緊急事態宣言下での戸外遊びには十分な感染予防対策を行った 帰園前の手拭徹底

### CS(Customer Satisfaction)行事計画

- ・柳町園合同運動会ならびにハロウィンまつりも親子で参加できた
- ・12月に親子行事を柳町園にて実施 園庭あそび及び3Fホールにて触れあい遊び・小麦粉粘土
- ・3月末に2歳児修了式を行い、スライドショーをDVDに収めて修了児に渡す

### 食育・保健

- ・給食会議を月1回行い、給食に関することをより詳細まで調理者に伝えた
- ・野菜など身近な食材を見たり触れたりした 夏にスイカ割りを行った
- ・内科検診(年2回)、歯科検診(年1回)、発育測定(月1回)
- ・おむつ交換シートを導入し、感染症対策を強化

### コロナ対策

- ・毎週園内の消毒を業務委託。玄関にAI顔認証体温計を設置。閉園前に壁床アルコール消毒。常時換気
- ・食事用おしぼりを引き続き導入
- ・午睡コットの間隔をあけて配置。食事の人数を1テーブル1人とし飛沫感染予防
- ・玄関での受け入れを徹底する

### 地域子育て支援・地域交流日を中止とし、園見学は随時受け付けた

### 施設整備 ・夏のあそびの充実 パラソル 水遊びテーブル等の購入

### その他 働き方の改革、意識改革、休憩時間の確保と残業時間の削減につとめた

青少年健全育成事業 古川橋小学校放課後児童クラブ 門真市御堂町18番9号

定員／面積定員／全校生徒数	80名／150名／268名
在籍 R3年4月／R4年3月	114名／93名
主任／副主任児童支援員	阿部利香 田中優 / 阪本真里奈 野口美千与
児童支援員 / 補助員	12 / 2

・R4～6年度委託仕様書による委託運営

定員 クラブ室面積による最大受入れ数。2クラブ定員80名を大幅に超えた入会となる

活動時間 授業終了後～18時(延長19時) 休校日は8時30分～18時(延長19時)

・情報漏洩など緊急時連絡体制を含む取り扱いについて重要指定情報管理体制届出書を提出した。

・久しぶりに事業者会議が再開され、他クラブの情報交換ができた。

・『放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業』が交付され、引き続き職員の処遇改善ができた。

・『放課後子ども教室運営事業』が開始。参加児の評価もよく、楽しそうに参加していたが、クラブ在籍児以外の参加が無く、人集めに難しさを感じた。

**クラブ内容・活動・行事**

・支援員の継続雇用により、事業が安定して運営できた。

・コロナ禍に市内児童クラブ入会者が減少する中、当クラブのみ増加傾向にあった。

・門真市より小学校校庭開放管理指導員の業務を依頼されるが、支援員確保、安全面の徹底が困難なため見送っている。地域管理の校庭開放時に利用保護者とクラブ児のふれあいで、縫合を要する裂傷事故が起きた。担当課に事故報告と、校庭開放管理業務について受託の難しさを改めて訴えた。

・コロナ前同様の行事はできなかったが、内容や季節を変更するなど柔軟に対応ができた。

・室内遊びの充実により、子ども達が落ち着いて活動ができた。

・障がい児保育 自立と社会参加を見据え、共に育ち合うよう成長促進 ケース研究、家族支援

・配慮児童の対応について、担当課・療育施設とケース会議を定期的に行った。配慮児と保護者の思いを受け止めこども集団で過ごすサポートをした。

・全学年が授業、宿題でタブレットを使用している。児童クラブでの取り扱い方を支援員と児童で確認し、徹底した。

・虐待疑いのある家庭を、担任と連絡を密にし、連携しながら見守った。

**苦情受付**

・子ども同士のトラブルの相談(上級生のきつい対応・友だちから意地悪をされた。叩かれた)

・連絡ミスにより、児童の下校方法間違い(1件)

**食育・保健・危機管理**

・新型コロナ感染予防対応をしたが、自由活動が主な児童クラブで活動の制限が難しかった。

・新型コロナウィルス陽性者が出た時に、接触者を最小限に抑えて、追跡調査に備え、学年別、座席指定とパーティションで区切った個別の環境を徹底した。

・避難・防犯訓練を毎月行った。

・戸外遊びの時は怪我軽減のため帽子着用を徹底した。

・ケガ、病気等、緊急事態発生時には保護者との連絡を密にし、市役所へ報告した。

・令和4年度からの医療的ケア児受け入れ態勢について検討し始めた。

・熱中症対策として、日よけ・スプリンクラーを導入した。